

学校評価アンケート結果 及び学校関係者評価

令和6年度の学校運営及び教育活動について、本校職員が「自己評価」をしました。自己評価結果から本年度の成果と課題を明らかにし、課題については改善策を立てました。このことについて学校運営協議会の皆様に評価していただいたのが「学校関係者評価」です。地域から信頼され、地域と共にある学校をめざして、この自己評価及び学校関係者評価結果を来年度の学校づくりにいかしていきます。

《学校教育目標》 幸福な人生を切り拓き、未来を創造する「やさしさ」「かしこさ」「たくましさ」を身につけた児童の育成							
教職員の自己評価 ☆は全員が回答を、★は教諭、講師が回答をしています。							
評価項目	観 点	努 力 点	平均P	成果と課題 (○) (●)	改 善 策(◇)	評 価	学校関係者評価 (評価に対する意見)
組織・運営	組織をマネジメントを生かした協働体制の確立	☆ 各部・各係が、学校教育目標の具現化に向け、学校経営の重点に基づいた企画により、自ら責任をもち校務分掌の遂行にあたる事ができた。	3.5	○各自が担当の部・係の重点目標を意識し、責任をもって取り組みを進める事ができた。 ○めざす児童像を意識し、各委員会を計画的に開催し、各部・各係の取り組みを行う事ができた。 ●校務分掌の軽重に個人差があった。 ●校務分掌の担当者が各部をまわっているため、部会や係会の時間設定が難しかった。	◇学年会や係会等で運営委員会や各種委員会の内容の共通理解を図り、組織的な協働体制の一層の充実を図る。 ◇各部・各係の取組において事後の振り返りを行い、課題や改善策の共通理解を図って取組の充実を図る。 ◇校務分掌組織を整理し、組織的で効率的な学校運営を行う。	4	・子ども達はみんな思いやりがあり、何に対しても一生懸命取り組むことができていると思います。 ・飯塚小の子どもたちは元気で明るいイメージです。子どもらしく泣いたり、笑ったりしてほしいです。 ・先生がたが連携しているいろいろな考えをくださり実行している様子が分かりました。いろいろな取組が子ども達に少しずつでも伝わっていくといいなと思います。 ・先生たちの熱意に感謝しています。 ・様々な校内委員会があり、そこに重複して参加している先生は大変なので、そこを改善をお願いします。 ・学校運営のための各組織がしっかりしているように見受けられた。
	めざす児童像に向けた学年・学級経営の推進	★ 思いやりがあり、互いに認め合う児童をめざして学年経営や学級経営等にあたる事ができた。(やさしい子) ★ 自ら考え、進んで表現し、未来に向かって自分を磨き高めようとする児童をめざして学年経営や学級経営等にあたる事ができた。(かしこい子) ★ 夢や目標に向かってねばり強く取り組み、挑戦し続ける児童をめざして学年経営や学級経営等にあたる事ができた。(たくましい子)					
	教育課程の確実な実施と子供の主体性を育む教育活動の工夫	★ 年間指導計画に沿って、計画的に教科の授業を行う事ができた。 ★ 学習のめあてを設定し、まとめと統合した学習指導を行う事ができた。 ★ 1時間の学びを課題解決的な学習過程として、児童の興味・関心を高める指導を工夫する事ができた。 ★ 諸教育活動のねらいや内容を見直し、活性化を図る事ができた。 ★ 地域のひと・もの・ことを活用し、児童の課題解決力を高める特別活動や総合的な学習の時間を充実できた。 ★ ICTの活用により教育課程の確実な実施ができた。					
研 修	学力向上に向けた授業研究、検証改善サイクルの機能化	★ 授業研究を全学級1回は実施し、仮説・着眼の有効性を検証する事ができた。 ★ 学力テスト等の結果を分析し、児童の学力の実態に基づいた学力向上の取組の推進を図る事ができた。	3.4	○トリプル80(テストで80点以上の児童の割合を8割以上にする、これを全単元の8割で達成する取組)の取組を日常化し、短いスパンで学力の検証と授業改善を行う事ができた。 ○主題研修では、低学年部・高学年部・特別支援部に分かれて研究を進め、各学級ごとに研究授業を実施する事ができた。	◇主題研究・一般研修・OJT(日常の業務を通して相互の資質能力を高めていくOn-the-Job-Training)により教師の指導力を向上させる。 ◇交流や振り返りの場面でのICTの有効活用について校内研修を実施する。	4	・トリプル80すごいです。子どものクラスは学力が高いように思います。 ・すばらしいです。 ・80点以上の数値目標はとてもすごいいと感じました。 ・80点以上取れるのが当たり前になってほしいと思います。一部は低くてもかまわないという児童がいるので。 ・トリプル80の取組はとても良いと思う。
	校内研修や各種研修による指導力の向上	★ 教職員のニーズに応じ、教職員の指導力向上をめざした校内研修に積極的に参加した。 ★ 校外研修に積極的に参加し、学んだことを授業や教育活動に取り入れる事ができた。					
人権教育	確かな学力を身につけるための指導方法の工夫改善	★ 基礎・基本の定着を図るために、具体的な手立てを工夫する事ができた。 ★ 日々の授業で、個に応じた指導など指導方法の工夫や改善を図る事ができた。	3.4	○基礎基本の徹底を図る全体での取組や個に応じた指導の充実に向けた個別指導、分割授業、習熟度別授業の実施ができた。 ○人権教育の体系化表を作成し、個別の人権課題について児童の発達段階に応じた学習を進める事ができた。 ●人権教育についての知的な理解はできていても、日常生活における言動に結びついていない面が見られた。	◇基礎基本の徹底にむけて、引き続き授業形態を工夫したり、個別指導や個別支援を充実させたりする。 ◇各教育活動を実施するにあたり、人権尊重の視点で実施内容の確認を行う。 ◇人権教育が授業だけで終わらず、日常生活と結びつくよう指導方法の工夫について支援委員会で検討する。	4	・学力の定着度に合わせて個別指導がなされており様々な工夫をしながら学習が進められているように思います。 ・言葉遣いの指導、よろしくをお願いします。 ・人権は日常的に学んでいく事が大切だと感じました。 ・人権教育体系化表をこれからも活用してください。
	人権感覚の向上と自尊感情の向上を重視した学習指導	★ 全教育活動の中に、人権・同和教育の視点に立った学習を推進する事ができた。 ★ 様々な体験活動を通して、豊かな人間関係を作る児童の人権感覚や自尊感情を高める事ができた。					
生徒指導	基本的生活習慣の確立	★ 挨拶や学習の準備・整理整頓など、基本的生活習慣の定着を図る事ができた。	3.5	○全校での「ほめメッセージカード」や「ハートの木」の取組、帰りの会での「いいところみつけ」など、教師から児童、児童から児童へ良さを伝える取組を通して、相手の良さや頑張りを見つけ、お互いを認め合う事ができた。また、児童が自己肯定感を高めることにつながった。 ○毎月の支援委員会でいじめアンケートの結果等をもとに児童の実態を把握し、いじめの早期発見、早期対応を組織的に進める事ができた。また必要に応じて教育相談やカウンセリングにつながる事ができた。 ●マンツーマン方式、家庭・行政関係機関やスクールソーシャルワーカー等との連携に取り組んできたが、不登校及び不登校傾向にある児童全員の不登校の解消までには至らなかった。	◇互いの良さを認め合う活動を継続して行うとともに、自己肯定感や有用感、充実感を味わわせるような活動を授業の中に位置づける。 ◇異学年交流の機会を増やし、人間関係を広めたり深めたりする中で、児童がよさを生かし、自己有用感をさらに高められるようにする。 ◇登下校時や放課後の児童の安全を確保するために、保護者や地域との連携を図る。 ◇不登校や不登校傾向にある児童への取組を支援委員会で共有し、家庭・行政関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携しながら不登校の解消や未然防止に組織的に対応する。	4	・ほめメッセージカード、すばらしいと思います。自分の子どもをみていてもほめられた方がやる気が出るようです。先生が昼休みに児童と遊ぶ姿を見て、すばらしいなと思いました。 ・自己肯定感を高めてほしいです。 ・「ほめメッセージカード」すばらしい取組だと思います。 ・子供は、ほめられると喜びるので、「ほめメッセージカード」や「ハートの木」はすばらしいと思います。人を心から褒められる児童が育ってほしいと思います。
	生徒指導の機能を生かした教育活動の推進	★ 児童とのふれあいを大切にし、児童に寄り添った姿勢で接し、児童理解に努める事ができた。 ★ 家庭や地域等と連携した生徒指導上の問題に対して、取組を行った。					
	家庭や地域と連携した生徒指導の充実	★ 一人一人のよさを認め、自己肯定感や有用感、充実感を味わわせるような授業や活動に取り組む事ができた。 ★ 通信や懇談会・家庭訪問等を通して、家庭との連絡を密にし、児童の理解を深め、健全育成に努める事ができた。					
	学校安全指導の充実	★ 交通事故防止や不審者対応等、児童の安全対策を行う事ができた。 ★ 毎月アンケートを実施し、いじめの把握をし、対応する事ができた。					
	いじめの早期発見・早期対応	★ 保護者等と連携しながらいじめの早期発見・早期対応をし支援委員会で報告する事ができた。					

評価尺度の基準 4……達成できた(80%以上) 3……だいたい達成できた(60~79%) 2……あまり達成できなかった(40~59%) 1……達成できなかった(40%以下)